

# 水を語る会

会報 第13号

平成24年4月14日

水を語る会

会長 眞柄 泰基

現在の会員数 一般会員170名 団体会員4団体 協会員7名 (平成23年6月1日現在)

## シンポジウムの報告

日時：平成24年1月21日(土) 14~16時

場所：日本水道会館 会議室

参加会員数：83人

今回は以下のパネリストに「水道と教育」に関して「子供につたえようこれからの水道」をテーマとしてシンポジウムを開催しました。



東京都大田区立道塚小学校 山本 恵美子先生  
奈良県王寺町立王寺小学校 川辺 恵美子先生  
管路管理総合研究所 柏 昌幸氏  
岩手県矢巾町上下水道課 吉岡 律司氏  
(司会) 元厚生労働省水道課 山村 尊房氏

冒頭、山村氏が「第一線の皆様にお話を伺い、日頃我々の考えていること、どのような協同の取組が可能なのか、方向性のヒントを探りたい」と述べて、続いて、各パネリストから報告があり、活発な質疑を行いました。

まず、山本先生からは「直結給水から始まった学校と水道との縁や、子供に水道・節水を考えてもらうための授業の工夫、さらには原発事故による放射能に対する親の反応と水道の安全性についての考察」等々、川辺先生からは「環境教育や水を汚さない活動に取り組むことになったきっかけと、子供たちのナレーションによる学校の取組み紹介のプレゼンテーション」がありました。

柏氏は、長年、全国の小学校に下水道の出前授業(無償)を行ってきた経験から「専門用語の扱い、ビジュアル化等の工夫や、記憶にとどめるための“和便器とうんちの携帯ストラップ”の配布」等を述べました。吉岡氏は住民の理解を事業の要とし、「水道ビジョンのマンガ化や水道サポーター制度の運営、ニーズ調査のための新しい手法の導入や標準化」などについて経験と意見を語りました。

来場者との質疑応答も行われ、最後に眞柄会長から「水道会館でこのような会に親子で参加いただき、未来を担う元気な子供の声を聞いたのが大変うれしかった。また、日本がサステナビリティをもつためには民度を高めることが必要で、その手段の一つとして環境教育がある。その意味では今日のような会は有意義だ」とのまとめの挨拶で幕を閉じました。

## 定例幹事会の報告

日時：平成24年4月14日(土) 12時~13時

場所：日本水道会館(会議室)

議題：総会準備、HP掲載内容、他

## リレーエッセイ「水声」のご紹介

水を語る会のホームページでは、水への想いを綴ったリレーエッセイ「水声」を連載しています。

回	題名	筆者
第18回	セブ便り	永井康敏
第19回	タイ国チョンブリー県について	田中明広
第20回	美しい水源を求めて	岡本芳樹
第21回	現場直視	関 栄造

## 編集後記

リレーエッセイ「水声」、水と環境、水と教育などホームページの更新も進めています。ご意見、ご感想などをお聞かせください。

<http://www.dab.hi-ho.ne.jp/mizu-o-katarukai/>

以上